





# 対馬国

現在の対馬

居るところ絶島。  
土地は山険しく、深林多く、  
道路は禽鹿の径のごとし。

九州の最北端、対馬上空7,000メートルから  
朝鮮半島を望む











住吉平採集品



貝刃器



イノシシの歯



ツメ類の骨



クロゲイの骨



イノシシの骨



イヌの骨



くぼみ石



抉入片刃石斧



古 銭



骨 鏝



イノシシの牙の加工品





■前漢鏡



■土壙墓

しも いせき  
**下ガヤノキ遺跡**

下ガヤノキ遺跡は従来ガヤノキ遺跡と称されていた。近年、東隣の丘陵地にも遺跡があることがわかり、従来の遺跡を下ガヤノキ遺跡、東隣の遺跡を上ガヤノキ遺跡と称するようになった。下ガヤノキ遺跡は対馬を代表する弥生時代の遺跡で、発掘調査は昭和23年、昭和45年、平成8年に行われた。昭和45年の発掘調査で6基の箱式石棺墓と2基の土壙墓、副葬品として前漢鏡、鉄器等が出土した。平成8年、新たに4基の箱式石棺墓が発見されたが、宅地造成のため舌状部分は削り取られ頂上部に遺跡を残すだけとなった。



















「史跡」

## 塔の首遺跡

昭和52年2月17日 文部省指定

本遺跡は、昭和46年比田勝小学校児童 金 広 和 君によって発見された「広形銅矛」がきっかけとなり、同年、長崎県教育委員会が発掘調査を実施し弥生時代後期（紀元1～2世紀）の箱式石棺4基からなる墳墓群であることが確認された。

発掘により、青銅製の広形の矛が出土したこと、韓国の無文土器と北九州の弥生式土器が、これらの遺物と一緒に出土したことなど、両国の直接的関係や年代及び大陸との交流など、研究にあたる意義は大きい。

1号石棺は早く失われて現存しない。

平成12年3月

文部省・長崎県教育委員会・上対馬町教育委員会



〈出土遺物は次のとおりである〉

2号石棺	銅	釧	1
	管	玉	1
	陶質土器		2
	赤焼土器		1
	水晶なつめ玉		1
	ガラス小玉		約1,400
3号石棺	銅	矛	2
	銅	釧	7
	齒	冠	7
	管	玉	1
	弥生式小壺		
ガラス小玉		約8,000	
4号石棺	方格規矩文鏡		1
	ガラス小玉		7
	小鉄斧		























臺灣歷史館  
展示品

方格規矩文鏡  
Square mirror with TLV patterns











弥生土器(壺・甕・高坏) [対馬市教育委員会蔵]  
＜小姓島遺跡出土＞ 弥生時代中～後期

日本列島産の土器

















5号石棺出土品

青銅製劍柄

銅劍

銅劍

銅劍













1(8) L. 86.5 cm



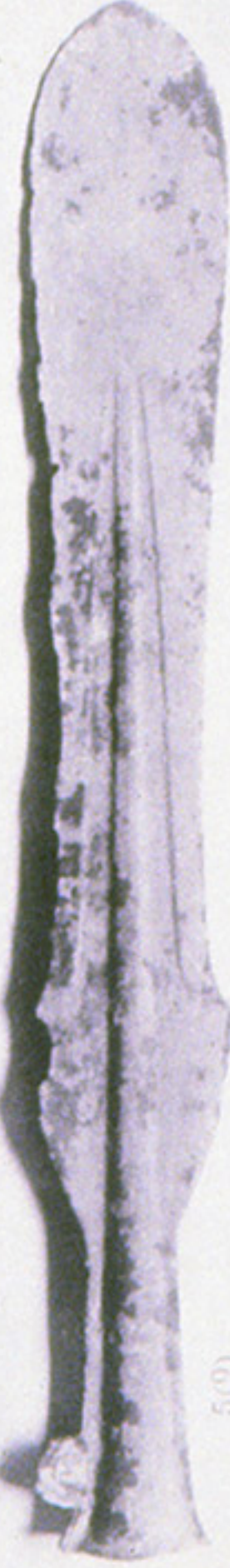
2(14) L. 87.0 cm



3(13) L. 85.1 cm



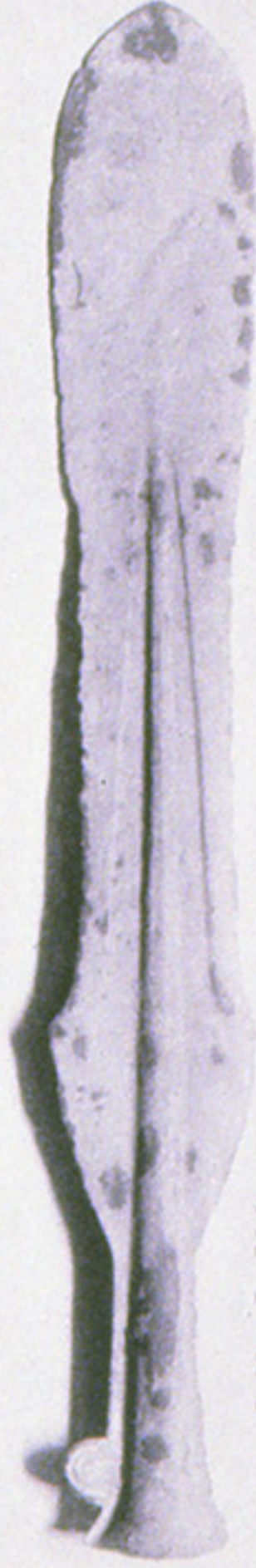
4(12)



5(9)



6(11)



7(10) L. 86.4 cm

加志青銅矛(雞知町) 仁位青銅矛(仁位村)





1(6) L. 83.4 cm



2(4)



3(5)



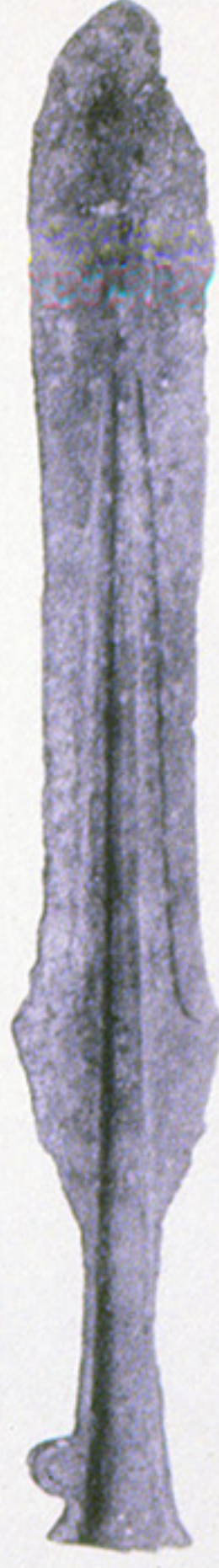
4(1)



5(3)



6(2)



7(7) L. 87.6 cm











島名	面積	人口	最高峰	備考
北海道	83,347	5,210,000	旭岳 2,276.9	
本州	377,923	107,000,000	富士山 3,776.4	
四国	37,818	3,400,000	石鎚山 1,984.6	
九州	37,818	4,500,000	冠山 1,613.0	
小笠原	1,145	10,000	御蔵山 1,083.0	

KOREA

49.5Km

長崎県  
NAGASAKI

対馬  
TUSIMA

馬津  
KAIKYO

高崎  
NIGASI SEIBO

1220

















# 長崎県指定史跡「出居塚古墳」

対馬の東海岸、美津島町の<sup>けちうら</sup>雞知浦の西方にある丘陵に位置する出居塚古墳は、長崎県で唯一の<sup>ぜんぽうこうほうふん</sup>前方後方墳です。この古墳の形態は九州地方には少なく、主に山陰・北陸地方に多くみられます。石室内部は盗掘されており原形は不明ですが、<sup>たてあなしきせきしつ</sup>竪穴式石室と考えられています。昭和26年の発掘調査では<sup>どうぞく</sup>銅鏃12本、<sup>へきぎょくせいくだたま</sup>碧玉製管玉1個、鉄剣片2本分土器片1点が出土しています。石室は礫を積んで竪穴式石室を形成したとみられ、長さ4m、幅2m、深さ、0.9mほどあります。本古墳の東岸には、昭和51年に国史跡に指定された<sup>ねも</sup>根曾古墳群があり、前方後円墳3基、円墳2基、から形成されています。

対馬における最古・最大の前方後方墳である本古墳は、出土遺物から4世紀後半に築かれたと考えられ、<sup>ねも</sup>根曾古墳を含めて6世紀頃まで<sup>つしまあがたのあた</sup>雞知を本拠地として対馬を支配していた対馬県直(『日本書紀』顕宗紀3年2月条に確認できる)を埋葬したと考えられています。畿内大和政権の傘下にあった対馬県直がこの地を本拠として対馬を支配していたことがうかがえます。

- 指定年月日 平成14年2月26日
- 墳丘の規模 全長40m ○ 後方部高さ 3.7m ○ 前方部高さ 1.2m
- 前方部長さ 21m ○ 後方部長さ 19.5m ○ 前方部幅 4m
- 特徴 前方後方墳 竪穴式石室
- 時代 4世紀後半～末
- 出土遺物 銅鏃12本(6本は厳原町資料館に展示)

平成15年3月

長崎県教育委員会・美津島町教育委員会















## 根 曾 古 墳 群

根曾古墳群は鶏知浦に張り出す小高い岬上にあリ三基の前方後円墳と二基の円墳とからなる。最高所にある第1号墳と第2号墳及び第4号墳はともに多量の石を用いた積石の前方後円墳であり、巨大な板石を用いた石室をもつ1、2号墳からは鉄製の鍬(矢じり)等が出土した。

第3号及び第5号墳はともに円墳であるが内部の構造は異なっている。

前方後円墳は対馬の場合、本古墳群と他に鶴の山古墳のみが古式古墳の形をとどめ、朝鮮半島との接点にある位置と共に内容形式のうえでも我が国古墳文化と密接にかかわっていると考えられる貴重な古墳群である。







